

令和3年度取組状況

ものづくり工学科 電気電子工学コース 准教授 石崎 明男

取組状況	
教育	<p>【授業】学習者中心、知識中心、評価中心、共同体中心の授業を実践した。授業のかなりの時間を割いて、(教員・学生間、または学生同士の)質疑応答、アウトプット(知識活用、知識の組み合わせ)、リフレクション(結果の精査、問題発見、改善)、ディスカッション(異なる意見への共感、反論、意思決定)といった、アクティブ・ラーニングの要素を盛り込んだ授業を行った。学び続けるためのスキルを身につけるトレーニングになったと考えている。今年度は、ある授業の小テストに LMS を用いた CBT を導入した。採点や結果記録はもちろんのこと、出題の自動化もおこなった。出題自動化では、スモールステップ化した問題の段階的な出題、ランダムイズされた同種問題の出題を行っている。このような出題はかなり煩雑な管理作業が求められる。今回の自動化により、これまで手動で行っていた場合と比べて、ランニングコストは格段に削減できた。なお、LMS の利用は、昨年度と今年度のいずれの卒業生アンケートでも、約 6 割の学生から支持されている。これは全項目中 3 番目の支持率である。LMS の活用は、学生の管理作業も軽減することから、多くの学生から支持されたと考えている。次年度の CBT では、詳細なフィードバック、興味を引き出す仕掛けを加えたい。具体的には、典型的誤答への原因指摘、ゲーミフィケーションの導入である。</p> <p>【進路指導】進路指導では、例年通りの内容(進学ガイダンス、進学補講、進学ページの内容充実、学生からの相談対応)を行った。補講への出席者(主に4年生)はここ数年の傾向と変わらず数名と少なかった。本年度の5年生の進学実績もあまり変化しなかった。といっても、国公立大学への進学者数は8コース中最多である。次年度は担任・副担任と協力して4年生の進路指導の時間を増やし、進路について考える時間をもう少し確保したい。</p> <p>【副担任】2年副担任として、slack を通じて種々の発言を行うことができた。技術視点に限らず、社会観や、職業観など多視点から学生たちを刺激できたと考えている。なお、このクラスの slack への投稿は一人あたり116通であり、連絡ツールとして重要な役割を果たしている。</p> <p>【ICT活用】LMS をハード、ソフトともにアップグレードした。セキュリティレベルの引き上げ、及び速度向上の工夫を盛り込んだ。旧サーバはバックアップ用として流用する。次年度は活用事例の紹介などを行い、コース教員に LMS の利用をさらに促していきたい。</p>
研究	
社会貢献	